

ぼくたちの棚倉町 ～未来のためにできること～

高野小学校 6年 ふじた 藤田 ともき 智輝

「高野小学校が無くなってしまふかもしれない。そして棚倉町の人いなくなってしまうかもしれないよ。」

総合的な学習の時間に、担任の先生がぼくたちに言いました。ぼくは、その言葉にびっくりしました。先生の話によると、棚倉町の人口は段々と減っていて、このままだと小学校が統合されてしまったり、場合によっては他の町と合併したりすることもあるのだそうです。

みなさんは、このことについてどう考えますか。ぼくたち高野小学校六年生は、先生のこの言葉をきっかけに棚倉町について考えるようになりました。今日は、ぼくが代表して発表したいと思います。

棚倉町は、優しく温かい人たちがたくさんいます。お店の人が気持ちよくあいさつをしてくれたり、近所の人と作った野菜を交かんしあったりする、そんな場面をよく見かけます。自然もとても豊かで、山で遊んだり山菜を採って食べたりすることもできます。とてもすてきな町です。こんなすてきな町なのに、どうして人口が減ってしまうのでしょうか。

総合的な学習の時間に棚倉町について調べたり、考えたりすることで棚倉町の現状が分かってきました。棚倉町は、東京や他の都市に比べて買い物に便利なお店が少なく、子どもが遊ぶ場所も多くありません。また、棚倉町は、すてきなところがたくさんあるにも関わらず、まだまだ棚倉町以外の人に、そのみりよくが知られていないことも分かってきました。ぼくたちは、もっと棚倉町がみりよくある町になり日本中に知られ、もっと町の人口が増加する方法はないだろうかと考えました。

そこで、ぼくたちはある計画を立ててみました。それは、棚倉町の森一つを使った大規模なアスレチック施設の建設です。きっとみなさんは、突拍子もないことと思われたでしょう。しかし、ぼくたちは本気です。実際に、ぼくたちが考えたことを紹介します。

まず、アスレチック施設のテーマは、「子どもも大人も楽しめるアスレチック」です。このテーマのポイントは「大人も楽しめる」という点です。アスレチック施設は大体が子どもがいる家族しか来ません。だから、この施設は大人だけでも遊びに来れるようにします。もちろん、子どもと保護者がいっしょに楽しめる工夫もします。ぼくたちは、このテーマを実現するために、他県の大きなアスレチック遊具をいくつも探して調べてみました。また、その遊具の設置費用も一つ一つ調べ、できるだけ安く建設できるように考えてみました。しかし、遊びに来てもらうだけでは人口の増加にはなりません。さらに、遊びに来たお客さんを棚倉町に定住させるための作戦も考えました。その作戦は「棚倉町に住んでいる人だけは入場料金を大はばに安くすること」です。棚倉町の人だけが、この楽しくてみりよく的なアスレチック施設を気軽に利用できるようにすることで、棚倉町に住みたいと思わせたいです。でも実際は、それだけでは、棚倉町に住むことを決める人は多くないかもしれません。そのため、アスレチック施設内で棚倉町の観光パンフレットを配布したり、みりよくを伝えるCMを流したりして、棚倉町のよさをどんどん伝えようと思います。

ぼくたちは、棚倉町の人口増加のために、アスレチック施設建設の計画を考えました。実際にはぼくたちが建設することはできません。でも、この計画が町長さんや棚倉町を創るみなさんに伝われば、実現する可能性だってあるかなと思っています。ぼくたちは、より詳しい計画を練って学習発表会で発表する予定です。まだまだ考えなければならないことはたくさんあり

ますが、棚倉町の未来のために、今、ぼくたちができることにこれからも、挑戦していきたい
と思います。